

【ネギ土づくり情報】

ネギの土づくりは、既にもうお済の方も多と思いますし、定植間近の方も多いかと思われます。

しかし、定植する前に、大事なことなので、ぜひいま一度、以下の3点をご確認ください！

【3つのどれか1つでも悪い状態だと、後で取り返しのつかない事になる可能性もあります】

①【物理性】(=水はけや、フカフカかどうか)

ネギを栽培する上で、これが一番重要(=大前提)となります！

ネギは根が水に弱いので、

・水はけが良いか、溜まる場所がないか

(できれば、サブソイラー等で硬盤を破壊しておく。また、念入りに、溜まらないように深く溝を掘ったり、作が長すぎる場合は途中で区切って横方向に溝を作ったり、)

・土は硬く締まっておらず、フカフカな状態かどうか

(根張りに影響します。毎年有機物や腐植を入れておくとういことです)

②【化学性】

・チッソ過多など、メタボ状態になっていないか。

(前作の残肥が多くなり過ぎていないか、石灰窒素などを入れすぎていないか、ケイフン等の堆肥を毎年入れすぎていないか。)(⇒過剰かどうか心配な場合は、ソフトシリカを全面に7-10袋、または株元に3-4袋入れておくと、余分な分を吸着してくれます)

・PHはネギに適した「6.5以上」になっているか。

(6.5-7.0くらいの、中性～アルカリ寄りの方が、ネギの病害は少ないです。ネギの病害の約7割は、酸性で出やすいカビ由来の病害です。)

(⇒PHを測ってなくて分からない&心配な場合は、卵殻の恵みを1反あたり8袋以上入れると良いです。卵の殻は、PH自動調整の機能があるため、入れすぎても大丈夫ですし、プラスで土をフカフカにしたり、ミネラルを補充します。)

・土にミネラル(微量元素)が豊富に入っているか

(毎年、家畜堆肥以外の有機物をしっかり入れたり、有機系の石灰やミネラル資材を入れているかどうか。ミネラルの豊富さ=ネギの病害やストレスに対する強さ、となります。)

(⇒お奨めは、「卵殻の恵み」や「有機リッチ」や「ソフトシリカ」)

③【生物性】(=土の中の微生物が沢山住んでいるかどうか)

この生物性が、一番意識されていない部分かもしれませんが、「①物理性」と「②化学性」がしっかりできている事が前提として大事なので、おろそかにもなっているかもしれません。

【しかし、近年、ネギの病害虫が多発している状況から、この「③生物性」は、とても重要となってきています！】

・連作していないかどうか、または連作障害(黒腐菌核や萎凋病や軟腐病)などが過去に出た畑で、1回だけの輪作でまた作付けしていないかどうか

(1年おきであっても、ネギを何度も作った畑には、病原菌の割合が多くなってしまっている可能性が高いです。)

・(輪作している前提で)毎年、しっかり有機物や腐植やミネラルを入れているかどうか

(それらを毎年入れる事で、土の微生物が豊かになります(=善玉菌が多くなります))

(⇒「卵殻の恵み」や「有機リッチ」や「ソフトシリカ」を、毎年使用することがお奨め。1回だけではなかなか微生物が豊かになりません。)

・過去に連作障害が多発した畑では、しっかりと太陽熱土壌消毒などで、病原菌をやっつけたかどうか。また、それだけでなく、その後、微生物を豊かにしたかどうか。

この「生物性」については、すぐに改善されるものではありません。

かといって、もう定植間近で、今からだと、なかなか対策するのが難しいかと思えます。

そんな時は、「納豆菌X」がお奨めです。

こちらもちろん、完璧ではありませんが、以下の点でお奨めです。

○そもそも病気が出づらい土にする。

・「生物性を改善する菌」としては「納豆菌」が最も優秀な菌と考えられており、それが【10種類】も含まれている。

(もともと畑に住む善玉菌を増やす効果が高く、更に 10 種類含まれているためあらゆる環境でも増えやすい)

・【80 種類ミネラル】も含まれるため、更にそれが土のエサとなり微生物を豊かにします。

・納豆菌は、増える力が強いので、有機物と一緒に定期的に使い続ける事で、どんどん微生物豊かな強い畑になっていく。

【5 回連作して、5 回とも「納豆菌 X」を使用した方の土のデータ】

(土壌微生物多様性・活性値)「1,389,123」(株 DGC テクノロジーの分析)

なお、DGC テクノロジーの定義では、

- ① 土壌消毒漬けで病気が多発する土壌は「10-30 万」
- ② 農薬・化学肥料が過剰で病気が発生する土壌は「30-50 万」
- ③ 平均的な土壌は「50-70 万」
- ④ 土づくりが比較的うまくいっている土壌は「70-100 万」
- ⑤ 微生物豊かで病気が少ない土壌は「100-130 万」
- ⑥ 大変豊かで、ほぼ病気が出ない土壌「130-150 万」

とされているため、こちらの「納豆菌 X」を使い続けている土壌は、⑥の土壌であると分析されました。

○その他の効果

- ・根張りを促進する。
- ・軟腐病が軽減される(直接効果があると、科学的に認められています。)
- ・80 種類ミネラルが、直接ネギに吸われてネギを強くする。
- ・土壌にくっついているリン酸を引き離して吸いやすくする。
- ・微生物の活動を活発にし、土壌の団粒構造を促進する(=フカフカにしていく)

<お奨めの使い方>1 反あたり 10 袋を、できれば作付 2 週間以上前に有機物と一緒に全面混和

【注意点①】エサとなる有機物が少ないとあまり増えないため、「有機リッチ」や「なたね油かす」等の有機物と一緒にご利用ください。

なお、「発酵しきっていない家畜堆肥」や「前作や緑肥の残さ」や「米ぬか」もエサとなりますが、その場合は地温 15℃以上で 1 ヶ月間以上納豆菌と混ぜて置いておいて下さい。

【注意点②】連作障害が多発した畑での使用では、効果が著しく劣ります。しっかりと輪作をし、しっかりと有機物や腐植やミネラルが入っている等、土づくりをしっかりしている場合には、より効果を発揮します。

以上、とても長くなってしまいましたが、ぜひ植える前に、「物理性」「化学性」「生物性」をもう一度見直し、今からできる事がありましたら、上記の資材などで対策をご検討ください！